

同 志 社 大 学

2015 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2016 年 3 月 15 日提出

所 属	職 名	氏 名
スポーツ健康科学部	助教	稗田 睦子
研 究 題 目	運動トレーニングが血管内皮機能を改善するメカニズムにアドロピンは関与するか？	
研 究 成 果 の 概 要	<p>Adropin は最近発見されたペプチドで、糖質・脂質代謝の恒常性維持に働き、肥満に関係するといわれている。有酸素運動は、肥満の解消や糖質・脂質代謝の改善に効果があることから、肥満者に対する有酸素運動の実施が血中 Adropin 濃度に影響を及ぼすのではないかと仮説を立て、本研究を実施した。</p> <p>本研究では、肥満モデルとして Zucker Fatty ラットを用い、運動群 (ZFE) と非運動群 (ZFC) に群分をした。ZFE 群には、トレッドミルによる有酸素運動トレーニングを週 5 日、6 週間行わせた。また、正常体重モデルとして Zucker Lean ラット (ZLC) を用いた。6 週間の飼育後、各被験動物から血液と動脈、心臓、肝臓などの臓器を採取し、血中および各組織の Adropin 量を ELISA 法にて測定した。</p> <p>運動トレーニングを行った肥満モデルラット血中 Adropin 濃度は非運動群の肥満モデルラットよりも高値であったという研究結果から、運動トレーニングは血中 Adropin 濃度に影響を与える可能性が示唆された。現在は、動脈機能と Adropin 濃度の関係を検討している最中である。</p> <p>研究成果の一部を第 70 回日本体力医学会大会 (和歌山) にて発表した。</p>	